

ZEN

全道展機関紙

No. 17

全道展機関紙「ZEN」 第17号 昭和62年4月5日発行
 発行所 全道美術協会 事務局 〒061-01 札幌市豊平区清田2-1-5-6
 久守昭嘉 011-882-3384
 印刷 中西印刷株式会社 011-781-7501
 編集委員 嵐 玲子 斎藤 洪人 手島圭三郎 谷内 丞

42回全道展作品公募

■搬入／6月17日(水)・18日(木) 札幌市民ギャラリー 午前10時～午後6時
 ■会期／7月1日(水)～7月12日(日) 札幌市民ギャラリー
 ■主催／全道美術協会・北海道新聞社

●出品を希望する方は返信用切手60円を添え、応募目録用紙を㉞〇六〇一〇九一札幌市中
 央区大通西三丁目北海道新聞社事業局文化事業部全道展係に請求下さい。昨年の応募
 者には送付します。また有名画材店頭にも置いてあります。

■巡回展開催地 旭川・美唄・中標津・網走・帯広・釧路・斜里・根室・鶴川・函館

第四十二回全道展にむけて

事務局長 久守昭嘉



年明けと共に、事務局は気持ちを一新して、第四十二回展の準備態勢に入った。一昨年八月新しい体制で発足した事務局だが、総べて新機構での取組みは、手探りの状態であった。

局内の連絡調整を密にして次第にチームワークもとれ、ミスもあつたが、皆さんの協力を得て、昨年の第四一回展を、何んとか無事に乗り切ることができた。

しかし、全道展の将来を見通すとき、難問が山積している。会の組織の膨張につれて、最大の問題点は展覧会場の壁面の狭さだ。年々出品点数の増す中で、現在の会場札幌市民ギャラリーでは、もう限度にきているのだ。従って、昨年は絵画会員の作品号数制限(ヨコ一六二種以内)を行ったが、今年からは更に、会友も同じ制限となった。会としては全

く不本意であるが、壁面確保上致し方なしの対策である。

例年のことながら、会場構成、陳列業務等担当会員は現状の中で最善の努力を払っている。昨年は二段掛け作品が予想した程多くなく安堵したが、今年ほどの様な形になるか予想はつかない。

第四一回展は、作品搬入数、入場者数共に前年の四〇周年記念展を上回り、好成績で終った。喜ばしいことであるが、まだまだ多くの人々に全道展を見て頂きたいものだ。そのためのPRも積極的にやりたい。営利目的ではないが入場料も、会の運営面で大きなウェイトを占めている。ただ、市民ギャラリーは駐車場もなく、地の利も良くないので、その点頭が痛い。

昨年から新しい試みとして、本展開催中に会場内で、入選作の批評会を実施した。反応は様々だったが盛況であった。今年も継続の

予定だ。作品を前にしての批評は、より適確であり、効果の上る勉強法だと思ふ。一般鑑賞者からの声としては、作品解説をの要望もあつたようだ。

本展終了後各地を廻る巡回展は、地方の会場事情により、全作品を取寄できない場合があつたことへの対策として、昨年から会員の作品は号のみを巡回することとした。

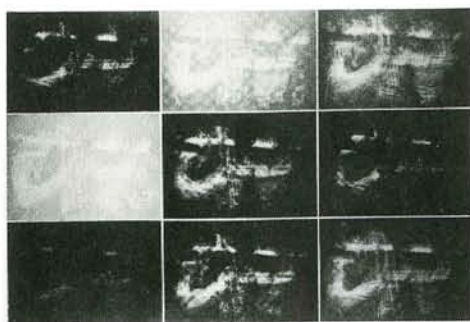
第四十二回全道展開催に向けて、準備は着々と進められている。出品される方々は、自己のベストを尽し、奮って制作に精進していただきたい。

今年も意欲的、自由な発想、そして真摯な内容ある作品の寄せられることを期待してやまない。

第29回学生美術全道展

搬入／10月13日(火) 札幌市民ギャラリー
 会期／10月17日(土)～21日(水)
 会場／札幌市民ギャラリー

搬入は、札幌市民ギャラリーです。応募用紙は、有名画材店又は〒〇六〇一〇九一札幌市中央区大通西三丁目北海道新聞社事業局文化事業部全道展係へ返信用切手60円を添えて請求下さい。



越谷 賢一

新たな認識にたつて 第41回展を観て

木には木にしかうたえない歌があり、石には石でしか語れない言葉がある、と私は思っている。それが新鮮な印象を与えるのかもしれない。しかし、実材の制作には色々な条件がある。夫々に特別の器材、場処がある。騒音、ほこりが出る。これらを一つづつ克服することから始めなければならぬ。昨年オープンした芸術の森の石彫アトリエも利用したいものだ。とに角、みんな好きなものを、好きなように、好きな素材で自由にやろう。今年も彫刻のいい作品を沢山見たいものだ。



「いろいろの素材に挑戦しよう」

本田 明二

ここ数年来、全道展はマンネリだと、会の内外で云われてきた。勿論入選作や受賞作ばかりではなく、会員の作品も含まれていることはいうまでもない。所謂「全道展的」なもの、という固定概念の中で制作され、審査が行われるとしたら、それは「全アカデミズム」のそしりをまぬがれない。

ところで本題の彫刻のことだが、マンネリといわれる会場の中で、若さと、活気が芽ばえつつあるのは彫刻だと思ふのはひいき眼か。かつて彫刻の作品は石膏による塑像が主流であった。それが特に近年、若い人たちを中心に、実材（木、石、金属等々）で制作する人が増えてきた。もちろん石膏でも良いものはいないのだが、素材そのもののもつ力強さを主張する作品が年毎に多くなってきたことはうれしい。

「マンネリズムからの脱皮」

板内 忠男

会場に二度三度足を運んでいるうちに、昨年の全道展に比べてどうか。五年前は、どうだったか。こんなことが気になった。いつの間にか、全道展の形ができてしまっているように思える。一点ずつ、画面の内側に潜む、絵の心に触れてみると、発想の希薄な作品や構成、フォルムに対する甘さが目に付き、また自己模倣に終る傾向も窺えた。

未知の世界を求めようとする憧憬や夢、失敗を恐れることのない気魄や、表現の自由な心と、他におもねることのないフロンティアな精神がほしい。

受賞作や壁面の中央に並べられた作品ばかりが玉ではない。玉と石は、絵造りで決まるものでもなく、作品の質なのである。

二段がけの中から、幾つか玉と思われる作品を見つけて出すことができた。紙面の都合で、個々の作

品については割愛しなければならぬが、真正面から人体のフォルムを取り組む常連と、形象に素朴さを失わない心の真実が、そのまま画面に現われている初入選の作など、将来を期待したい。

「全道展を識ること」

渡会 純价

第41回全道展を終えて半年以上も経ち、講評といわれても気の抜けたビールの様で不味い。画集を片手に個々に書いても読者に伝わらないであろうから、おこがましいが版画部門を通して全道展出品者への提言を試みたい。

どの分野にも言えるが、アートの世界に技法をぬきにしては語れない。とくに版画では技法が優先されてくる。今日の版画界は数多くの技法書もあり、多くの優れた指導者もいる。私が銅版画を手探りで習得した頃を思うと隔世の感がある。ところがこの辺に落とし穴があるのではないだろうか。飽食の時代の欠陥が芸術まで及んではいけぬ。あまりに技巧に走りすぎ技術の完成度だけが表面化されているように思える。技術は基本型を身につければ、どんなバリエーションも可能なのである。

作家にとって最も大切なのは自己表出の手段であり、その作品がどこまで昇華させ得るかであろう。例えば、第41回展で受賞した竹田道代、坂本正子の版画は好評を得て受入れられた。竹田「卓上の静物」は版との葛藤の中で生まれた結晶といえる。坂本「高台の遊園地」の素朴な技法は、却って素直な心が豊かな表現しえてい

ここで敢えて言いたいことは、部門毎に確立しているが、一部門の団体ではない。自分の所属する部門のみに捕われることなく、全道展の全体像から造形理念を勉

びとり身につけて欲しいと思う。

「ますますの発展を願って」

佐藤 靖

四十一年という長い歴史と伝統の中でつくり上げられてきた主張と精神に、会場のいたるところで直接触れることが出来る、私自身も大いに意を強くしたところだ。一昨年は、四十周年の一つの節目を終え、さらに新しいエネルギーを発散させようとする諸会員の創作活動は、新たな全道展の歩みを創造していくことであろう。

会場構成もさまざまな条件を克服しながら年々工夫が加えられ、より良い雰囲気の中で作品（作家）と鑑賞者の出会いが出来たように思われます。

工芸部門の中にも、過去の様式にとどまらず、新しい息吹を感じさせる作品が見られたことや出品地域にもやや拡がりが出てきたことは、これからの展開に期待を持たせるものでした。

素材を生かした技術と造形への限らない配慮、又、制作への個人としての自覚が高まる事によって今後益々幅広い創作活動が可能となることであろう。

東京地区

東京在住の会員の動向

渡辺 真利

本展開催前後の会務に携わる会員の方々の苦労に支部として敬意を表します。又、昨年小島真佐吉会員が逝去されて支部としても寂しくなりました。東京支部では、懇親を兼ねて話し合う他全員で行動をすることもないので、通信によって集めた会員の動向を書きながら述べます。小川マリ・耳や眼が多少弱くなった他は元気です。田中忠雄・スパイ防止法案に賛意表明する美術家がいることに驚きを感じている。仙台東北学院礼拝堂のステンドグラスのデザイン中。難波田龍起・昨年秋季敦煌の莫高窟にゆく。4月いわき市で11月東京国立近代美術館で個展。松島正幸・慢性肝炎発見され精密検査で入院。医師の許可が出次第ヨーロッパ旅行の予定。田辺謙輔・旅行中

地区だより



地区だより



地区だより



地区だより



①奨励賞・橋本諭さんの作品(右) ②懇親パーティー受付の周辺
③表彰式一新会員のあいさつ ④懇親会—武田厚氏と乾杯
⑤来賓(竹岡・小谷・豊島各氏)を交えて熱っぽく

小林数・3月東京でグループ展、4月以降制作旅行に出ます。大谷久子・もつか大作制作中。岸葉子・2月大阪天王子美術館研究所40周年記念展に出品、秋サエグサ画



高令の小川マリ会員も元気に出席 (東京地区のつどい)

廊で個展。小野州一・5月九州で12月東京で個展。蛭子善悦・3月帰国し東京で、5月エルム画廊で個展。渡辺真利・1月メキシコに旅行、7月室蘭で個展。菅野充造・2月に住居アトリエ共に転居。小川洋子・昨年クリスマスの日父逝去、春陽展にむけて早く静かに制作したいと願っている。安多郁子・経費軽減の面で巡回展の作品を小さくしたらどうしようか。北岡文雄・3月片島へ写生、10月中国各地の美術学校で版画指導と北京、重慶、杭州で個展のため旅行。藤島清士・埼玉県に転住して6ヶ月、気候にも馴れ春陽展出品制作中。大落啓・3月のシドニーでの個展円高で延期、9月東京川上画廊で個展。浜西勝則・昨年秋季アメリカ七都市の美術大学視察その間シカゴ、フィラデルフィアで個展。ニューヨーク近代美術館シカゴ美術館にパーマネットコレ

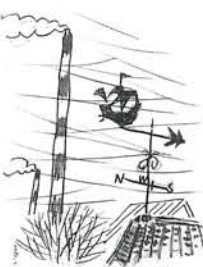
苦小牧地区

会友陣の活躍

中丸茂平君は、昨年勤務先の病院で、患者の作業訓練のための実習室を自力の素人集団で作った。屋根はトタンだが、その他は全部丸太仕上げ。これが評判で見学者

以上、敬称略

がぞくぞくという。完成までの写真を見せてもらったが、なるほど一見の価値ありそうだよ。
鈴木善公君。三年前、全道展出品作を中心に回顧展を開いたが、昨年は元の職場王子美術館の四十周年記念展が好評で五十周年を少し大規模で企画したいと意欲的。彫刻の佐藤輝彦君が観別から移ってきてもう三年、当地の全道展仲間がつくる。彫刻集団ZERの会に迎えられて闘志復活、年に一度のZER展が楽しいと。鶴川の友井勝章君は、事業多忙な中でよく絵も描くが、本年2回目の全道展巡回展を企画している道展と全道展を交互に連年開催という町ぐるみというの、もともと友井君が開拓してきたおかげ。高橋正敏君は公務激務を極めて、全道展苦小牧支部と苦美協の両事務局を引き受け若さで乗り切っている。アトリエを拡張したとかで制作快過が何より！
池本良三君。月刊アトリエ誌の塾の帝王秋山祐徳太子さんとは、武蔵美術時代の同級生だが、今は一方的にハゲまされつ放しの身？
三月の地元紙に、風見鶏でマチの造形教育、という顔写真入りの紹介記事がのっていった。さっそく見いてスケッチしてきた。
自称「夢を売る男」のアイデアはさすが。一万円でできる夢！



池本良三郎の風見鶏
(カット・遠藤ミマン)



釧路会場



函館会場〈道新提供〉



帯広地区搬入の日

釧路地区

斎藤 一明

今、釧路地方においてのビッグな話題は、美術館誘致断念とも受けとれる市長発言に端を発した、道立美術館誘致運動であろう。それは市長発言に反撥しての巻き返しをめざした、美術館誘致促進審議会の発足と、美術館誘致促進委員会、行政、民間一体となって再編成、立て直しが図られた。

旭川、函館に次いで道立三館目の美術館誘致は、釧路にとってかねてからの強い望みであった。市民活動も活発な動きをみせ、「美術館の建設を実現させる市民の会」はそうした中で結成された市内の美術四団体が一つに会したのも初めての事だったが、この団体によるチャリティー色紙展は、市民の盛り上がりも意図したものであったが、作品追加分も売りつくす盛況だった。売上金の一部は市の誘致期成会に寄附された。会場となったミヤタ画廊も、その人気に画廊はじまいて以来と驚かせ、こうした空気は市内にも及び、喫茶店モカでは、道東の中心釧路市に誘致しようの協賛キャンペーンを、根室も含め管内十ヶ町村でも根強い運動で急速な盛り上りをみせている。こうした爆発的なエネルギーは美術関係者のみにとどまらず、各種団体の協賛を得て、ふくらみをみせている。

昨年の釧路巡回展は、公民館を会場に行なわれた。前年より二十点ほど少ない今回の展示は、それだけゆとりのある見やすい会場だった。初の試みだった親子同伴券は好評で、小中学生の入場者増は特記すべき事だった。

帯広地区

岡沼 淳一

なぜか雨に付きまとわれることの多い一年だった。

六月の本展搬入のため軽トラックで越えた日、四十一回展の帯広巡回展の搬入日も雨だった。

帯広巡回展の最中の八月二十四日に故神田日勝さんの十七回忌法要が鹿追町神昭寺で故人の冥福を祈り、在りし日を偲びながらとり行なわれた時も雨だった。

一九七〇年の二十五回展帯広巡回展搬入時に発熱し、数週間後の八月二十五日にその生涯を閉じた日の夜も雨だったという。

十七回忌と同時に鹿追町社会福祉会館にて「神田日勝資料展」が開催され、鹿追町での神田日勝記念館期成運動の高まりを強く感じさせられた。

故神田日勝さんの十七回忌と帯広巡回展が重複したので、巡回展の搬入、陳列後の慰労会では竹岡和田男氏を囲みながらその当時の巡回展の苦労話などが話された。その当時にくらべ帯広巡回展は道新帯広支社の援助もあり十勝の夏の美術展として定着してきている。

本年二月九日、村元俊郎氏の長年の制作活動を支えてこられたトシ夫人がご逝去され、二月十四日芽室町法蓮寺にて告別式が行なわれた。告別式祭壇には村元氏が描いた夫人の遺影が掲げられ氏の夫人を思う心で打たれた。

故人の話が中心になってしまっただが、昨秋、森弘志さんの個展・村元氏の野外展などの活動があったことを付して報告とする。

旭川地区

神田 一明

旭川地区の巡回展は7月18日、30日に西武デパートで開かれまし。地元出品者は総勢32名で皆活気に溢れ、会期中は連日市民の入場者で賑わいました。西武を会場の中心にある為、鑑賞者が入り易く大変好評です。しかし難を云えば少々会場が狭いのと経費が掛かることです。経費については出品者全員で前売券を分担して奮闘しました。お除で赤字を出さずに済みました。又、会期中に出品者全員で街の画廊で小品展を開催し、普段大作からは伺えない側面を互いに知る事が出来興味深いものでした。

一月には画廊で新年の支部小品展を開催、一日には支部新年会を開きまわし、三日には全道展では厳選のため旭川からかなりの落選者が出たことなどが話題に上り今年は奮起しようと互いに励まし合い、大いに意気上りました。

2月12日、会友の平岡正造氏が突然亡くなり皆呆然としました。前日まで友人と酒を飲んだりして元気だったそうです。一昨年辺りから喘息が悪くなり、昨年は全道展も不出品で画廊と退院を繰り返してまいりましたが最近ばかり回復し元気になって皆ほっとしていた矢先だったので実に信じられない出来事でした。氏は長年旭川地区の作品の本展への搬入出を一手に引受け又、巡回展では縁の下の方力持的な存在で、大変盡してくれた事を改めて感謝している次第です。心から御冥福を祈ります。

函館地区

秋山沙走武

昨年一月の総会で鶴川会員から地区連絡員の事務を引き継ぎ、本年一月の総会では、事務局の構成は次の諸氏にお願いすることになった。会計宮西氏、監査長谷川氏、外山氏。何と云っても昨年の話題は待望の道立函館美術館の開館である。美術ファンの期待を荷つてのオープン展は「ルノアールと印象派の巨匠たち展」であり、入場者は予想をはるかにうまわる盛況であったと聞いている。今後の推進のために役も二役もはたして欲しいと思う。

巡回展についてみれば、従前の移動展の搬入、陳列には学生アルバイトを使ってきたが、今回は出品者ですべてを完了した。これまでのアルバイト料は、当日の弁当、陳列完了後の打上げ（参加者約三十名ほど）の補助金にあて、たまぐ（来函中の竹岡和田男氏をかこんで美酒に酔い、一層の親睦の輪がひろがったのは収穫であった。このことについては鎌田選之助会員の力があったこと。お礼申し上げます。陳列委員長の木村訓丈会員からは次の要望事項があったので追記しておく。

会場についてはどこでもか、えている問題であるが、「事務局の巡回展係から郵送されてくる巡回展作品リストに、平面のものであれば縦、横、版面についてみれば額縁をふくめた寸法の明記」が望まれるとのことである。狭い会場をいかに活用するか今後の課題であらう。

(九ページにつづく)

全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし

広がりのある
空間を求めて

(絵画) 森 弘志

中央線から小枝として延びる青梅線に乗り換える、直後に一瞬とはいえず立川基地跡地が見えた。ポカんと広がるその光景はとても美しく、それが気に入った事もある。東京での最初の生活の場を基地ゲート前に求め、新しい友人達と共に絵を描く意義や意味と対峙する日々がそこからはじまった。やがて、彼らとの不本意な形での離別を境に、勘と力運とか縁などという見えない力の存在を知ることとなる。

全道展とのかかわりは、その見えない力によって導かれたものかも知れない。ありがたいことに、末技への警鐘役として、今現在の僕個人にとって、とても大きな役割を担う様になってきている。

自然の中のモチーフ

(彫刻) 川名 義美

私はいつも作品の最初のアイデアを骨や貝殻や流木や木の実に求めます。それは次のような理由によります。

太古の昔、人間はこれらの物に興味や価値を持たせました。世界中のどの地域どの民族にも見られたことです。ですから、多少の違いがあつたにしても、古代人はそれらの物に對してある種の共通した概念を持っていたと思われまふ。その後、人間は進化して言語・宗教・生活習慣等が分化・多様化して、今ではそれらの事など、もう忘れ去ってしまったかのようです。しかし本当にそうでしょうか。私にはまだそのあとかたが、尻尾のように残っているように思えてなりません。もしそうだとすれば、骨や貝殻から形を描き出すことは私にとってまだ会ったこともない人と作品を通して、あるイメージを共有できることになるわけです。

漁婦

(絵画) 大友 和子

石狩に住み十年たった。浜益へ車をとばすのが好きである。望来の黄土の丘に上ると海が一望できる。

潮風に吹かれ赤ら顔の漁婦と言葉を交わすようになって、海の荒れた日は網にホヤがかかると嘆くのを聞き、袋いっぱいもらう。ヒラメは安くするから買えと押しつけられた。死んで時間のたった魚は売り物にならない。だまされながらも、たくましく生きる漁婦の姿にひかれる。

太ったその漁婦を画面に描くとスリムタイプの女になってしまう

のだが海で触発されるイメージが今の私の作品だ。九州を旅し、熊本で三岸好太郎の「海の射光」に出合い、ふるえほど感動した。そのとき、石狩の海が私の脳裏をなつかしく走った。

色彩・この
不可思議なもの

(絵画) 高橋 靖子

色彩。それは私の五感を激しく刺激する。朱と緑、紫と朱、黒に深緑、黒と深紅、グレーにピンクとレモンイエロー。地塗りを重ねた平面に思い切り線を引く。それは一本の線からはじまる。まっすぐな線、ふるえる線、曲りくねった線、平面の中でそれらは表情を見せはじめ息づき情感を示す。私の感情の波動を伝え、心はかすかにふるえる。突然、線はくずれて乱れてはじける。あゝあややちやった。畜生ノ何とかものにしたかったのに。又もがむしやらしがみつく。もっと深く、濃く。再び私の心はオレンジ色に染められて、ゆるやかな呼吸のリズムに合せて筆がはずみはじめる。しつこく欲張りて、でもこんなやり方でも素直な気持ちで描けるようになった。

絵が激しく変わる時、それは戦いの時。自分の心にとことん正直に生きる時でもあると思う。



伊藤 啓子

量の表現とその多様さ

(彫刻) 今谷 孝

彫刻という心象表現の発表の場があり、その場で賞を頂けることは、有難いことと思います。

彫刻をまがりなりにも創るようになり、足掛け九年になろうとしています。大学で立体表現のおもしろさに取り組んでみようとしたことが切っ掛けで、少しずつ表現の意味がわかり始めた感じがするこの頃です。彫刻には、時間・場所・モデル等の制約も多く、確保に一苦勞で一工夫が必要で、もつと量の大胆な表現を……と思いつながら、それを乗り越えられない状態で、量自体の持つおもしろみと具象表現と写実表現の間を行ったり来たりした結果である。もの(量)自体の持つ効果的に使ってみようと思つた。

人体という一つの条件を受け、個人作業でありながら、共同作業の形をとって一緒に創る仲間感謝し、これからも続けていきたい。

新鮮な喜びを再び

(版画) 坂本 正子

最近家は家の中ばかりで日に当た

ることが無く、風邪ばかり引いて居るので、元旦が、51才の誕生日に、一念発起して体力を付けよう、と、水泳と歩くスキーを始めたところ夢中に成り、子供に返ったように楽しく、最近はその故か風邪を引かなくなり、昨年10月の純生展以来制作していない版画も此の分だと、もうじきやる気が起きるのではないかと期待？しているのですが、さて、どうなりますか。

まずは、バーサー大会の十キロ目ざし力を付けます。昨年の全道展では、思いがけない奨励賞を頂き、其れを知った時のあの嬉しさは、今思うと、とても新鮮な、もう二度と味わうことの無い喜びであったように思われます。私の人生に活力を与えてくれた全道展に感謝し、四二回展も是非、皆様とお会い出来るようにと念じつつ……。

異郷にて

(絵画) 林 教司

郷里は目抜き通りの街灯を維持する金がないという。残飯あさる野良猫がみな血統証付きらしい。

二年前移り住んだこの町も、やがて崩壊する。百年続いた石炭の王国も生きたまま埋もれてしまった。時と云ふ乗物からの風景が、個人的な花鳥風月やらを絵画する機会を、長い事与えようとしてくれない。陰湿で無口なキャラクター達には正直云って食傷きみである。

全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし・全道展とわたし

しかし、今更晴れを着せて、お道化てみせても詮ない話である。世直し出来ぬ苛立ちと、苛立ちからの逃避と、煩わしさからの、傍観者として、絵を創つて行く事等々――。

しばらくは、胎内にうごめく物
と、外から腹打つ得体の知れぬ物
との共同作業。
新たな啓示の時まで――。

10

一途な美しさを

（絵画）
藤林 曄子

もう十年の余も前のことですがある高校の学園祭でジャズ研究会の学生達がピアノを叩きエレキギターをかきならしてのり出し合いました。その音色は強烈で且哀愁を帯び、これは若者ならではのものであると心打たれた事でした。今私は「若者たち」を描いております。人物とギターを組合せて構図を考える時、あの折の学生達の姿が浮んで来るのです。手作りの照明の光の中で我を忘れた様に演奏していた若者たち。一途な美しさを私は描きたいと思います。でも出来ません。何もかもむづ

理屈帳作り

〔絵画〕
佐藤フサ子

勝手な理屈帳を作り、自分の氣勢を高揚させる事に努力しています。

遠影 場として考え、色か
形か線か、この選択は、中影によ
って決め、この場たるものの解釈
は明確につかむこと。場を軽じな
いこと。場を手抜きして先に進ま
ないこと。

中影 これは大変な部分を占めるものだから、私自身を大きく占領し、私自身も愛情を注ぎこんだもの、注ぎこめるものを選び、力をこめて、大きく、愛情の押し売りをして嫌われるくらい描く。

前影 この辺まで来ると少し気が楽になり、全体のバランスを距離をおいて見る。味つけの加減をしてくれるもの。画面を一つにしてくれるものを丁寧に捜し出す。これは絶対我家から、みつげ出すこと。以上

場が、婆になり、今年も年数を重ねて、ババちゃんになりました。描く手掛かり求めています。

石塊の魅力

（彫刻）
渡辺 行夫

ここ数年、夏の間に集めておいた石を、冬期間に集中して制作するパターンが定着しています。冬のほうが必然的にアトリエに籠っている時間が確保しやすいからです。そんな訳で、六・七点はこの期間に制作します。年間で十点程



自然・人間・絵をかくこと

（版画）平塚 昭夫

全道展に初入選してから、もう二十一年の時が過ぎました。絵筆を持つようになってから、いつも絵とは何か、人とは何かと

原発への思いを

キャンパスに

春になると、又、新しい出会があるでしょう、山野の動、植物達が顔をだし長かった冬を語ってくれるのでは、思っております。

絵を描く事、人が生きる事に対して、自然は新しい確信を与えてくれるでしょう、そんな春を心待たしております。

考えておりました。そして絵とは
 “心の糧であり、魂の糧である”
 と、心な絵が描けたらといつも
 願っております。

今は、自然の中の動、植物のサ
 イクルや、対象物のメッセージな
 どを無理なく表現出来る画材を借
 りて表現する事を、心がけており
 ます。

春になると、又、新しい出会いがあるでしょう、山野の動植物達が顔をだし長かった冬を語ってくれるのではと、思っております。絵を描く事、人が生きる事に対して、自然は新しい確信を与えてくれるでしょう、そんな春を心待たしております。

原発への思いを
キャンバスに

(絵画) 棚橋 永治

日本には稼働中の原子力発電所（原発）が33基もある。原発は、世界のどの国も大きな地震帯を避けて建ててゐる。こんな危険を冒してまでも原発は必要なのだろうか。「日本の原発は炉型が違う。安全技術は世界一」とうそぶき、今もなお放射能をばらまいて大気や海を汚染している。補償金をはらまいて人の心まで汚染させている。20年以上経って今だに放射性物質の後始末が出来ないでいる。泊原発（岩内町）もやがて動き出す。幌延町には「高レベル放射性廃棄物やTRU」の核のゴミ捨て場に、下北半島を巨大な核燃料サイクル基地にしようとしている

ビュランの魅力

（版画）
安藤 康弘

三カ月前から全道展出品作をピュラン彫りで、制作しています。銅版画の技法の中で、最も修練を必要とされているこの技法は直接銅板を彫るので、ピュランの刃がすべて余分な所まで彫るのには序ノ口で、一定の太さの線、流れるような曲線、カチツと交差する線など、一本の線を彫るのにはどの修練と極度の緊張を強いられます。制作の途中で指の関節が

夢幻の軌跡

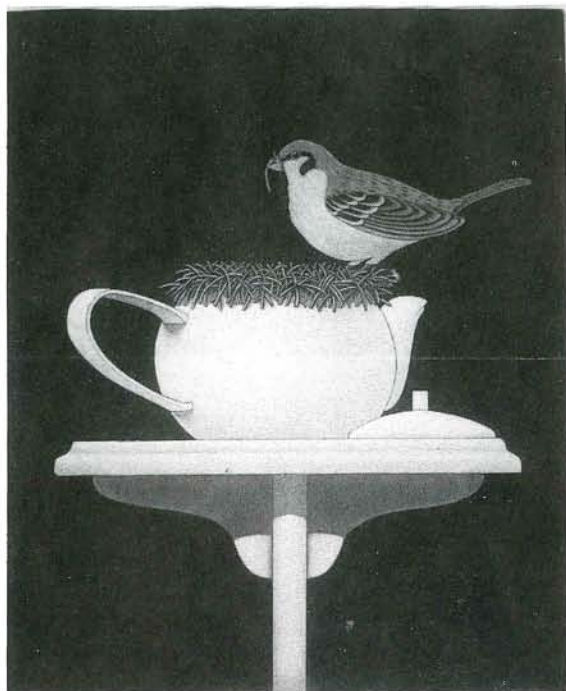
岩船修三展

4月4日(土)～5月7日(木)
北海道立函館美術館

ミレー・コローと
バルビゾン派展

5月9日(土) ~ 31日(日)
北海道立近代美術館

私の発想と展開



テーブルの上のティポットに、おなかがいぶ大きくなったスズメが、巣造りをしている絵を銅版にした事があります。BIRDS TABLE(三)二年程前です。これはメルヘンなのか、ユーモアなのか、軽いジョークか、文明批判か、いずれとも

できます。ヒヨドリ、コマドリ、スズメは勿論、ヒバリ、田ヒバリ、ハクセキレイ、山鳩、うすいす、めじろ等、向いのマンションにはさまれた、狭い庭に集まってくるのを見ながら、メモを取ったり、スケッチをしたり結構楽しんでいました。しかし、

たことがあります。さつきなど季節になると、部屋中、鉢だらけ、花だらけにして悦に入ったものです。増々エスカレートして七十数鉢ほどに増えてきた頃、やはり、こういうことはちよつと、どこか違うんじゃないかという感じがして、その後急に熱が

中のいたるところにあって、いや積極的に造り出されてもいるようで私を妙に不安にさせています。そこで私流の思いつきを發揮して、なんとか居心地のいい違和感にならないものかと、夢想したのが BIRDS TABLE シリーズなのです。現実には決つて起ることのない場面に、幻想とユーモアという甘味

居心地のいい違和感

水落 啓



適度に盛り込まれているようで、私自身好きな作品のひとつになっています。最近、私の卓上世界の主人公は鳥が多くなりました。仕事場の前の庭に鳥用のエサ台を作つて、リングの皮やパン屑などを入れて置くと、驚く程多種の鳥たちが集まっ

うれしいうな、また鳥たちを逗しう思う気分と共に、せっせとエサをやるたび、鳥の数が殖える程、なんとなくこういう状態は、ちよつと違うなという感覚も発見します。以前、かなり盆栽や鉢植えの植物に凝っ

さめてしまいました。自然を身近に感じたり、眺めたりできることは、確かに心地良いことには違いないのですが、方法の間違えや、強引さを感じるとひよいと違和感が顔を出すようです。この居心地の悪い違和感は、他にも暮しの

料とかくし味としてちよつぱり文明批判も奥わせて、日本人的几帳面さと、私流のいかげんさを混ぜ合わせて、居心地のいい違和感と共に、どうにか私の小宇宙を出現させることができました。

桐の花となった東政雄さん

木村 訓丈

自然を愛し 故 東 政雄
つつけた

平間正造さんを悼む

高橋三加子

暖かい人柄で 故 平間 正造
親しまれた

昨年九月下旬、函館で開かれた巡回展には、あいついで故人となられた四人の会員の作品と御遺影が飾られていた。四点のそれぞれの作品は、描きつつけてきた作家だけが持つ張りつめた強さを放っていて、あらためてその死の無念を思った。山口惣市さんと東政雄さんは函館ゆかりの作家だっただけに、函館の人々は多くの想いを懐きながら作品の前に佇んだ。その時の函館の目録の表紙には東政雄さんの作品「青の梧桐」F50号が大きく飾られていて、桐をこよなく愛し描きつつけてきた故人の真摯で清廉な人生と画業を偲ぶよすがとなっていた。

今年は秋も短かくもう冬のたまたすまいで、また長い雪の日が、と思ふと七十七才も過ぎて、希

今年一月、恒例の全道展旭川支部の新春展も無事開かれ、今年はめずらしく、会期中に新年会をやるとういうことになった。平間正造さんは、何時にも増して、力が入った重厚な山の絵を出品していた。体の調子もきわめて良い方向に向っているということで、新年会にも元気に出席された。みんな健康快復を喜び合っていた矢先の信じられない訃報であった。この一、二年喘息ぎみで体調がおもわしくなく、入退院されていたようだったが、持前のガンバリでいつも「大丈夫だよ」という言葉に、私は安心しきっていた。

旭川の巡回展にとって平間さんはなくてはならない存在で、飾付の達人でもあった。巡回展が復活した十七年の間、会場が四回ほど変わったが、そのつど展示スベールを見まわして、必要な道具類の分量を指摘し、飾付作業の終る時間をピタリ言いあて、抜群の行動力で私たちが引っぱっていつてくれた。おかげで段取りよく、なかなか雰囲気作業に取りかかれるまさにムードメーカーの役割まで果たしてくれていた。

平間さんはこの四、五年、マヌカンのシリーズを描きだしたところから、絵が変わりつつあった。旭川の純生展という展覧会で発表した一点は、平間さんの内面の発光体がにじみ出てくるような深いものが感じられて、思わず背すじをのびし、長い間見入っていた記憶がある。これからもっともっと充実させたかたに違いなく、残念でならない。

そういえば、平間さんとの出逢いはいつ頃からのだろう。私がい

望も夢もなく一日一日が貴いようであり寂しくおもいます……でも生あるうちは一作でも二〇号位はベッドに腰掛けて筆をとりますが、すべてが左手のみです。何をしても再三再四くり返えしの連続で、気も心もつかれ……老いてこんな病にと吾運命をかなしくおもえたりません……チュウウをしばって筆が持てればと絵具の香りに親んでいまして……今年息子の車で墓参りもでき過日立待峠、横津高原、大沼も何年振りか半周して来ましたが、夏には赤川へも、自然の大気を一日でも味わえてしあわせでした！

お亡くなりになられる一年前の十月にいただいた最後のお手紙である。熱い闘志が行間に燃えてい



もの心ついた時には、父や絵の仲間の人たちと共に、いつも平間さんは居られたような気がする。旭川の鉄道美術部に在籍され、山や海へ、毎年のように家族ぐるみで出かけた思い出がなつかしい。これからの作品の巾を広げようとした時に、どんなにか口惜いことでしょう。謹しんでご冥福を祈ります。

華麗なる幕明け 全道展新年会開催



●昭和62年1月10日(土)

●札幌ローヤルホテル11階



▶なごやかに抱負を語り合う

一九八七年(兎年)の全道展新年会は一月十日、雪の札幌の夜を一望に見下すローヤルホテル十一階の大広間で華やかに開かれた。当日ふぶきのため少々心配していたにもかかわらず、参加者は札幌はもとより、旭川、苫小牧、小樽、岩見沢、北は美深、紋別と道内各

地から八十数名。それに招待の御客様と一〇〇名を越す大人数で新春にふさわしくゴージャスに開かれた。まず巻頭の御挨拶は作家の荒巻義雄様からいただき、どこを向いても不況、不況の北海道をどうのりするか。産業構造の一大転換期

をむかえて、今後の北海道はどう生きのびるか。北海道の美術文化発展をどさん子の根性をもつ、みなさんへ唯期待すると終られた。つづいて、昨年オーブンした札幌市民にも好評の札幌芸術の森の側見様、道立美術館副館長小川様、其他の方々からの全道展への期待はげましの祝辞をいただいた。

ひきつづいて祝盆、まるいテーブルをかこんでのゆっくりとくつろいだ雰囲気の中で、日頃きいてみたい、芸術論、苦心談、楽しいおしゃべりとすばらしい洋食、中華料理を食べながら、楽しい歓談は続いた。腹いっぱい食べたところで、日頃のくらし芸の披露となり、油彩の伏木田光夫さん、本城義雄さんの朗々とした歌声に酔い、続いて、苫小牧の池本良三さんのウクレレ漫談、世界名曲めぐりロック、カンツォーネ、シャンソン、ラック、ウェスタンと一同うんとりと聞きはれて、時のたつのもすっかり忘れてしまった。

いよいよ最後のふくびき大会。さてみなさんは何があつたでしょうか。今回は百号のキャンパス油絵具セットとかデラックスプレゼントもあつたようですが、版画の尾崎さん、渋谷さんにキャンパスがあつたり、大同ギヤの広瀬さんに絵具セットがあつたりです。そういう私には赤と黒のサインペン二本でガツカリしました。楽しくすごしているうちに時間はアツという間に過ぎ、最後は道新の竹岡和田男様の乾杯に終りました。八七年の新作は不況の北海道をアツとばすような、すばらしい作品の誕生を期待して新年会の報告を終ります。

(大井戸百合子記)

トピックス

折原久左門 六一年日本芸術院賞受賞
本田 明二 六一年北海道文化賞受賞
手島圭三郎 六一年日本絵本賞受賞
福井 正治 六一年日本絵本賞受賞
竹岡 羊子 六一年第54回独立展独立賞受賞
岡沼 淳一 86自由美術展・佳作賞受賞
越谷 賢一 第二回和歌山版画展ビエンナーレ展で佳作賞受賞
福井 路可 (国内外三千点の中「三」展にて新人賞受賞
川田 静子 美術誌・芸術公論賞受賞

エルミタージュ

美術館展

ヨーロッパ絵画
——ロマン派から印象派へ
7月4日(土)〜8月9日(日)
北海道立近代美術館

仲間のたより

●早いもので埼玉に参りましてから八ヶ月になります。昨年は気候の変化に順応できず少々弱りましたが、今は順調です。丁度埼玉版画家協会の創立展に招待され、浦和の近代美術館で五作品出品、暮の小品展にも新作四点で参加致しました。今、春陽展出品作品に精を出してありますが、その後は武蔵野、秩父などの作品にばかり、秋には浦和、川越で新旧作品展で、栃内さん砂田さんにお会いできて懐かしかった。又、谷口さんからの賀状で「早く埼玉の人になつて下さい」という便りに感無量となりました。しっかりと根をおろして埼玉の住人になろうと思えます。そして札幌は素晴らしい私の故里になるのです。

皆さん寒さに負けず、御健康に注意しながら、全道展作品にむけてガンバってください。

●全道展の東京でのことをまとめてくださっている渡辺真利さんが耳の病気で入院とのことでしたが、最近お元気になられたようで何よりです。

小野州一さんが、はじめて描かれた絵本「にれの街」で二つの賞を重ねて頂いた由でおめでとございます。

蛸子喜悦さんが、近くパリから帰られて東京・札幌で個展の由です。

岸 葉子 ●脳梗塞で倒れてから満四年になる。よく生きたものだ。七七才。昨年末、慢性肝炎発見され、精密検査で、三五日入院昨日退院した。いよいよ年貢の納時、ガンと云われようと、肝硬変と云われても不思議じゃない。これもパス、もう少し生きることにした。カンヌの家の整理、私の作品の整理、全作品の画集も作りたいし、やりたいこと沢山。これがなかなか大変。医師の許可が出ると、欧州旅行にも出るつもり。諸兄の健康を祈ります。

●スイス・バーゼルのカーニバル取材のため渡欧中です。 松島 正幸

●五月個展のために帰国いたします。 竹岡 羊子

●最近私の身近にちよとした異変が起きています。それは 吉田 康子

札幌市中央区南二条西九丁目二一—一札幌市中央区南二条西九丁目三三—五この住所に両方共青木淳子さんが住んでいるのです。という訳で長い間の界限では青木淳子の名をほしにまましてきた私にとりましてショックな事態ではあります。そもそも彼女の存在を知ったのは郵便物の間違いから、配達人に文句を言った、まさかというのを頭をわかし、ちなみに向こうの方は一年前に結婚して現住所に住むことになったそう。この情報だつて間違ひはがきから知ったのです。頭の部分を変えたら混乱即解決と皆さんおっしゃいますが、この際この提案を真剣うに考えてみましょう。 青木 淳子

●純白の雪の中で 蘇東坂の雪が大好きになつて、読みあさっている。自然の美しさが、せつないほど日常のなかに押し寄せてくる。この頃

度と比例しているようだ。生について、あまりにもデオニソス的混沌が近づいてくるので、画家としては絞りこんだ仕事をしないと、美しきものとは手からこぼれていってしまう。泳ぐ人とか歩くる人を描こうとしている。

伏木田光夫

一年前に杉村と東京での一回顔会った。この時に杉村は静かな一年間でした。田村孝之介君はじめ頃からの面友の幾人かをあの世に送り、自分もそんな年になったのだと思わぬ誤にはうかなくなりました。今年も同様でしょうが仙台北の東北学院の新しいキャンパスにできる礼拝堂のステインドグラスのデザインで忙しそうです。高さ十メートルの大きな窓です。少し体力に自信がなくなりましたが何とかいけるでしょう。

田中 忠雄

●三國三郎が「繪畫の導へん」を刊されました。御希望の方は、御本人まで御連絡下さい。伊藤 聰

だが、最近版を磨くのが非常にくたびれるようにになった、そこで電気ドリルの先
に手製のデスクを取り付け磨くようになった。持ち時間も無限ではないので仕事上
にも優先順位をつけながら。

大高操

友、平正正志の嫡子である。二十五年生
養し、い程順調な體態の逸才であつた。現
職を去つて間もなく、ぜん息が出たらしい。
入退院を繰り返しかへしてゐたらしい。
煙や溶油の臭いと喉に悪く、種草もや
めていたようである。二存じの通り努力
家で、全道展では古参の方である。豊か
な人間性が人に好かれ、人望も厚かつた。
これから尚一層充実して、絵に打込た
うと云ふ矢先で本人も誠に残念であつた
ことと思つた。心から二冥福を祈る次第であ
つた。

森田 喜昇

●昨年ニューヨークの近代美術館其の他でマチス、ピカソ・ミロ、カンジンスキー、等私のおこがれの作品をみました。今展出しても作品を前にしたあの感激にしばれそうです。今度は芸術の旅なでてしてみたいと思います。それにしても感激の割に自分の作品にちっとも変化ないのが残念です。

中村 静枝

●昨年末の小生発病に当りまして、多くの方々よりご心配や励ましのご便りなど、頂きましてありがとうございます。軽い胃カイヨウで治療していますが、順調に回復しておりますので御安心下さい。事務局の仕事は当分まわりの方々に手伝ってもらい指示する程度にしています。よろしくお願ひいたします。

●二月は私にとって、とても暑い時季なので。

寒さもさることながらモダンアート出

品作が手こづいても修正がきかぬという時間
に追われ、荷造り発送を考へたもう一筆
をおかなくてはなりません。今年も又、
不満を残したまま、時間切れとなつてしま
いました。中々エッジが、らず何時も
準備の悪い自分を反省しております。
これからは全道展に向けて何とかその挽
回とを願っているのですが。 坂原千エ
六 昨年は大病の後のために初の個展を含め
たもう展覧会があり、大変しんどい年で
した。

疲勞していた為か暮に悪い風邪に取り付かれ、未だはつきりせずぐずぐずと冬眠して居ります。

今年は先ず体を調え、ゆっくり走ろうと思つて居ります。

清田 操

●今年は個展は休むつもりですが、グループ展などで、矢張り制作に追われてしまいます。でも、いつも忙しそうにしていることを、はづかしく思っております。

八木 伸子

●聞家集因ZEF C展……：昨年十二月無事終了。

鑑賞者も増え、ますますのどき。

● 昨年は陽光の中で雪が舞っていたのに今日は嘘のように晴れている。長い冬から開放されたいというねがいも、あたかくふりそそぐ陽光が運んでくると思うと北国ならではの歓びに僕は深呼吸をする。雪の雫のおとをききながら筆をとり心にかけらねばと思うこの頃です。

佐藤 輝彦

●札幌に帰って参りまして、やっと寒さや冬に対する己れに気合いが入って来ました。地元の利で適度な多忙さの毎日ですが、それも何とも嬉しい悲鳴です。

●長年の望みだった美術教科の免許がとれ、美術だけで生きていけるのが、何よ

八木 和子

りもれしい。美術開眼の年になるよう
感心します。 川田 静子

●昨年八月夏夏の東京で（銀座八の八番
生堂画廊）展覧をやりましたが、その暑
さと空調完備の差で風邪をひき、目は充
血し鼻づまりはするし耳なりはするしで
メチヤクチャでした、ひらきなさっての
作品群（一三〇号、九点）でしたがメチ
ヤクチャやられました。身の程を知らぬ
惑を深くして、満身創痍で千才空港で
のんだビールのうまさに慰められました。
これからはリラックスしてやらなくて
はとつくづく……もうすぐ春です。

●十年間続いた「泥展」が発展解消して「グループ・五人展」になったのが八四年。全道展に集う五人が切琢磨磨しなごらのグループ展であったが、今年は新人女性を加え、七名で「グループ・点展」をつくった。公募展に作品を出すだけでなく、その時代の作品を発表し、批評を受け、学んでいく壁を確保しておきたい

●日が短く寒いときは、札幌まで展覧会をみに行くのも大儀になって冬ごもり。三月十六日から始まるグループ「朔」の作品をいじくりまわす。年始めに、故高野次郎と考えたからである。メンバーは、足立寿裕、土井善範、清水昌光、西辻恵三、佐久間俊雄、藤田博子、土屋千鶴子。ご指導をお願いいたします。

土屋千鶴子

●13年前より青美のデッサン会にいき、途中何年か休んで后又でるといいうりかしをつづけている。家にもいても、りんごや子どもたちのデッサンをするのが好きで、青美のデッサン会では、果物小品展で並々ならぬ教養と人間性にふれた。札幌から馳つけてきた竹岡和男さんと高野さんの奥さん全道展の仲間たちで華街諸ある店のさつま焼酎で飲談。電話で福井長氏と長谷川利行の話をする。少ししど長く暖かくなってきた。

野木 醇

●今、樹を描いている。冬の高地の樹木をかけるということ、なんとなく真剣に制作できる雰囲気が好きで、そこでの二時間あまりの空間を大切にしている。全道展の仲間では、寺西由起子さんや雨館からは小沢みとりさんが時々みえて、会場を明るくしている。

川本ヤスヒロ

を。厳しい寒さで枝の先端まで水
晶化となる樹木達を、天は密かに待って
いたように無言の歡喜を見せてくれる。
その息の詰まるような美しさに触れると
天の領域に少し思えなくなり、心は震え
描くことを躊躇せなくなき。でもなんと
か天上の大きな意志に少しでも触れて
私の思念の接点をゆるやかに求めるが
ら近付く描く意欲を育てたい」と又
山に行く。

清水 淑枝

●本年は出品する予定です。今回は巡回展に参加の予定ですが、重量物のため、もっていっただけるか心配です。

黒田 栄一

●春もようやくで季節柄あわたたしくて

筆に熱が入りません。何か秘訣はないものでしょうか。

沙田 湯子

●安田侃はローマ滞在中で六月には来日予定です。

●三部屋のアパートから、もと電気屋さんの店舗付の家に移りました。

今、メキシコのイメージを描いています。

す。戸次 正義

● 昨春秋、右の耳が急に聴えなくなるといふ右突発性難聴で一ヶ月半入院し、会からもお見舞をいただきました。毎日一時間、高圧酸素タンク（一、六気圧）に全身を入れ、強力に復酸素を送り込むことによつて、聴神経を復活させるという治療の結果、多少の耳鳴りが後遺症として残ったものの好運にも聴力が、九〇％程度

に回復しました。もしも何日間も症状があらわれたら、ベタローは八時間以内にならなくても六日以内に高圧酸素タングのある病院に直行することをお勧めします。そうでないと永久に聴力を失うことになりかねない」と医師が話しておりました。

渡辺 真利

●病につき数年余、今年も勤務出来る年間休職 終日、寝たまま、時々起きる筆を執っても長続きせず、又、床に臥す状態の連続です。だから皆様にくれぐれ健康にご留意下さい。お身木大切に

●谷内承さん一月。国際雪像コンクール（十六ヶ国参加）に出場。カナダ・ケベック州へ、札幌市から派遣されました。
毎年のように中国を旅されていた小川原節先生は、今春は、インドへ行かれました。田家の大邸宅に五日も滞在されて

全道展・図録・ZEN等への意見要望・質問など

●ユニークな機関紙としてのZENも、平一度になった。その経緯も一般に語られていない。ともあれ切角の年一度の発行ならば、通例的な文面は抜いて、興味

める内容に一新していただきたい。視点

を少し変えるだけで面白い話題が多い答

図録の原色版採用について

このことについては、かねて検討されてきたが、今年は思い切って原色版にすべし。問題は予算であるが、広告を多く入れる。図録の価格を上げる。等々、やろうと思えば実現できると思う。

一般観客者も、原色版希望の声が圧倒的に多い。会務委員会で検討し、総会の提案としてはいい。

答カラー印刷については昨年からの検討結果でもあります。二回展は残念ながらモノクロのままです。「一カラーに作る作品については搬入を一ヶ月早めなければならない」二「搬入から陳列までの間、作品保管場所三「画集単価のアップ

大友　一村

ブー等、これらの問題を何とか解決して、期にカラー印刷を実現したいと考えています。

図録作品写真掲載に際しては、まず、会友に出品しては作品の寸法がわかぬ、また、一般出品作品についても、番号、立体作品は大きさを、明記されては、いかがでしょうか。巡回展の陳列に参ります。

秋山ギヤ走武
全道展会場構成に一言「市民ギャラリー」を会場に少ない壁面をどう使うか大変な思いを込めて

事務局庶務部

と感謝するところだと思いませんか。と、ロビーに仮設パネルのセッティングは苦痛しく全然雰囲気がないもの。ましてやその狭苦しく、照明の悪いところに受賞コーナーは全く言語道断、インイベントが泣く。

張り第一室の中に他作と並べ、全体的にベルアップに努め、効果的思考が必要はなからうか。又、絵画を鑑賞する時

個展グループ展案内

- 日韓交流美術展
3/17~30 韓国国立現代美術館
全道展からも多数出品
- 第1回オーストラリア、北海道タビ
スリー交流展 伊藤啓子外
3/16~29 札幌アートプラザ
(北5西11)
- 川本ヤスヒロ個展
3/31~4/5 大丸藤井セントラル
A室
- 谷口一芳個展
3/23~28 時計台ギャラリー
- 在道作家独立展
4/13~18 時計台ギャラリー
- 「グループ 点」展
4/27~5/2 時計台ギャラリーA室
- 蛸子善悦個展
5/11~16 時計台ギャラリー
- 吉田康子個展
5/18~23 時計台ギャラリー
- 前野昌市自像展
5/4~9 時計台ギャラリー
- 琴似画会展
5/4~9 時計台ギャラリー
- 福井路可個展
6/15~20 時計台ギャラリー
- 竹岡羊子個展
6/18~7/7 ぎやらい彩(札幌)
- 三箇三郎個展 ロングラン継続
62年4~63年3 五陵郭ニューギャ
ラリー
9/5~13 網走市立美術館
- 朔風会展
(廉毛、能登、沼田、鈴木、大友)
6/24~28 苫小牧画廊
- 中橋修個展
7/6~11 時計台ギャラリー
- 大友一夫油絵展
7/中旬 平取町中央公民館
- 徳丸滋個展
7/6~11 時計台ギャラリー
- 大地康雄個展
7/28~8/1 時計台ギャラリー
- 現代女流5人展
7/9~29 ぎやらい彩
(八木伸子他)
- 八木保次・伸子とその仲間たち展
7/13~18 大同ギャラリー
- グループ燦(八木伸子参加)
11/17~23 東京銀座三越
- 菅野充造個展
7/6~11 時計台ギャラリー
- 7/27~8/1 大阪茶屋町画廊水彩展
- 9/14~19 東京横町画廊
- 全道展旭川支部小品展
7/22~28 旭川国劇画廊
- 戸次正義個展
7/27~8/1 時計台ギャラリー
- 渡辺真利個展
7/30~8/4 室蘭⑧デパート
- 彫刻家集団“北斗会。第16回展
8/上旬 丸井今井両館
- 北山寛一展
8/10~15 時計台ギャラリー
- 斎藤剛火個展
8/10~15 時計台ギャラリー
- “版の会。
(宮本文彦・松田信・八木知子)
8/11~16 大丸藤井セントラル
B室
- 高野陽子作陶展
8/27~9/1 アートギャラリーさ
いとうB室

彫刻と背合わせも考えもの。

大地 康雄

●支部便りには会としての意見提案、仲間の便り、自分の動向を書くようにすると重複が避けられると思う。

渡辺 真利

住所・姓名・電話番号・呼称変更と転居

松隈康夫 札幌市豊平区西岡五条一丁目六二二三
伊藤啓子 札幌市南区常盤八八番地一七
佐藤輝彦 苫小牧市沼ノ端五一九一四八
沼ノ端小学校内
志津照男 〇四五一〇三 古宇都神恵

安多郁子 東京都板橋区南常盤台二一八七三三〇三
羽山欣周 小樽市塩谷二丁目一六番地十
戸次正義 函館市美原五丁目十四番十九号
佐々木梓子 〇一三八四六二二四二 函館市中島町三五二二

菅野充造 〇一三五七七一六九五九 東京都杉並区宮前四二二六
二一六八 〇前と同一
アトリエ 杉並区松庵三三
三九一三 高橋方
〇三三九五五九三三五 小樽市塩谷二丁目一六番地十
〇四一 函館市美原五丁目十四番十九号
〇一三八四六二二四二 函館市中島町三五二二

本庄康伸 旭川市大町二条十三丁目六六
八木知子 〇六三 西区二四軒二条二丁目ライラックハイツ三〇三
〇六二二九〇二四
〇八〇一〇一

全道展に関するお問い合わせは次の所へ
●全道展事務局
〒〇六二〇一〇 札幌市豊平区清田二一五五五 〇六二〇一八二一三三四 久守昭嘉
●北海道新聞社事務局
文化部 全道展担当
〒〇六〇〇九 札幌市中央区大通西三丁目 〇一一二二二二二

●編集後記
熱のこもった原稿を、切実に御協力くださいましてありがとうございます。今まで紙面でもとりあげていた個々の批評は、会場での作品を前にして語るべきところでは、昨年度の反省の上に立って各部門から見解を述べいただきました。金道展とわたしでは多くの出品者の発言にスペースをさしましたが、キャリアの違ひはあっても制作にかける情熱が、このためにこめられておりました。このエネルギーが、よい作品を生むための魅力あるZENに育てていきたいと思います。

●編集後記●

- 遠藤ミマン個展
8/31~9/5 時計台ギャラリー
- 森谷一展
9/9~14 旭川国劇画廊
9/21~26 時計台ギャラリー
- 藤井正・高志父子展
9/中旬
- 岸葉子個展
62/秋 東京サエグサ画廊
- 森田喜昇個展
9/2~7 旭川国劇画廊
- 神田一明個展
9/23~29 旭川国劇画廊
- 本城義雄個展
9/14~18 時計台ギャラリー
- 小川原裕個展
10/5~10 時計台ギャラリー
- 小関恵久子個展
10/5~10 時計台ギャラリー
- 伏木田光夫個展
10/12~17 時計台ギャラリー
11/2~7 文芸春秋画廊(東京)
- 成田勇吉個展
10/14~19 旭川国劇画廊
- 野本 醇個展
10/19~24 時計台ギャラリー
- 外山ムツ子個展
10/19~24 時計台ギャラリー
- 高橋三加子個展
10/21~27 旭川国劇画廊
- 松隈康夫個展
10/26~31 大同ギャラリー(札幌)
- 原 義行個展
11/9~14 時計台ギャラリー
- 斯内忠男個展
11/16~21 時計台ギャラリー
- 第10回女の会
11/2~7 時計台ギャラリー
- 武田忠子個展
11/9~14 時計台ギャラリー
- 岸本裕躬個展
11/23~29 時計台ギャラリー
- 水野スミ子個展
11/30~12/5 時計台ギャラリー
- 国松 登個展
11/30~12/5 時計台ギャラリー
- 全道展旭川支部新春展
63.1/20~26 旭川国劇画廊

企画展

42回全道展授賞者招待展
10月12日(月)~17日(土)
大同ギャラリー(札幌)

在札幌素描展
6月8日(月)~13日(土)
大同ギャラリー(札幌)

熱のこもった原稿を、切実に御協力くださいましてありがとうございます。今まで紙面でもとりあげていた個々の批評は、会場での作品を前にして語るべきところでは、昨年度の反省の上に立って各部門から見解を述べいただきました。金道展とわたしでは多くの出品者の発言にスペースをさしましたが、キャリアの違ひはあっても制作にかける情熱が、このためにこめられておりました。このエネルギーが、よい作品を生むための魅力あるZENに育てていきたいと思います。

風 記